安全データシート（ＳＤＳ）

作成日 : 2005 年 04 月 01 日
改訂日 : 2026 年 03 月 23 日

１．製品及び会社情報

製品

製品名	SRKシールC　硬化剤

会社情報

会社名	シンレキ工業株式会社
住所	〒 144 - 0052　東京都大田区蒲田 5 丁目 44 番 5 号
緊急連絡先	中央研究所
電話番号	044 - 366 - 1617
FAX 番号	044 - 366 - 1618

推奨用途及び使用上の制限

・当社製品SRKシールC主剤に添加し、常温ひび割れ補修材として使用。（業務用）

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

急性毒性（吸入 － 粉塵・ミスト）	区分4（55%未満の未知成分あり）
皮膚腐食性／刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分2
呼吸器感作性	区分1
皮膚感作性	区分1
発がん性	区分2
生殖毒性	区分2
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器・呼吸器系）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（呼吸器・呼吸器系）

※ 記載が無いものは区分に該当しない又は分類できない。

ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報

・吸入すると有害
・皮膚刺激
・強い眼刺激
・吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ
・アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ

・発がん性のおそれの疑い
・生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
・臓器の障害（呼吸器・呼吸器系）
・長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害（呼吸器・呼吸器系）

注意書き

〔安全対策〕

・使用前に安全データシート（SDS）を入手すること。
・すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
・取扱い後、よく手を洗うこと。
・換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。
・保護眼鏡及び保護面／保護手袋を着用すること。
・必要に応じて個人用保護具を使用すること。

〔救急措置〕

・吸入した場合：空気の清浄な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けること。
・吸入した場合：呼吸が困難な場合には、空気の清浄な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・眼に入った場合：水で 15 分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。
・皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。取り扱った後、手を洗うこと。皮膚刺激又は発疹が生じた場合､医師の診断／手当てを受けること｡汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
・ばく露した場合：　医師の診断/手当を受けること。
・呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。
・粉末消火剤、耐アルコール性泡消火剤、又は二酸化炭素、防災砂を用いて消化すること。

〔保管〕

・容器を密閉して換気の良い場所で、施錠して保管すること。

〔廃棄〕

・内容物／容器を都道府県市町村の規則に従って適正に廃棄すること。

GHS 分類に関係しない又は GHS で扱われない他の危険有害性

有害性

・蒸気及びミストを吸い込むと呼吸器を刺激し、喘息様症状を起こすことがあり高濃度の蒸気・ミストを吸入すると肺水腫を起こすことがある。
・皮膚粘膜等に接触すると刺激性があり、炎症を起こす。
・眼に触れると激しい痛みが起こり、場合によっては視力障害を残すことがある。

環境影響

・水性生物に対し有害である。

重要な兆候及び想定される非常事態の概要

重要な兆候：　特になし

想定される非常事態の概要：　特になし

3．組成及び成分情報

単一化学物質･混合物の区別	・混合物	
化学名又は一般名	・イソシアネート硬化剤	
成分及び含有量	① ポリイソシアネート	1 ～ 5 %
	② ポリメチレンポリフェニルポリイソシアネート（PMDI）	27 %
	③ メチレンビス（4,1-フェニレン）＝ジイソシアネート（4,4'-MDI）	21%
	④ フタル酸ジイソノニル	45～55 %
化学式	・特定できない	
CAS 番号	・① 非公開　② 9016-87-9　③ 101-68 -8　④ 28553-12-0	
官報公示整理番号（化審法）	・① 非公開　②（7）- 872　③（4）- 118　④（3）- 1307	
（安衛法）	・①、②、③、④ 化審法を準用	

4．応急措置

吸入した場合

・被災者を直ちに空気の清浄な場所へ移動させ、安静に努め速やかに医師の手当てを受ける。呼吸が停止している場合には人工呼吸を行い、呼吸困難な場合には酸素吸入を行う。

皮膚に付着した場合

・汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぐ。製品に接した部分を水または微温湯を流しながら洗浄する。石鹸を使用して良く落とす。付着部に変化がみられたり、痛みが続く場合には直ちに医療処置を受ける。

眼に入った場合

・清浄な水で 15 分以上眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受ける。
洗眼の際、まぶたを指でよく開き、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。

飲み込んだ場合

・水でよく口内を洗浄する。可能であれば指をのどに差し込んで吐き出させ、直ちに医師の手当てを受ける。被災者に意識がない場合、口からなにも与えてはならない。

最も重要な徴候及び症状に関する簡潔な情報

・かぶれ、喘息を起こすおそれがある。

応急措置をする者の保護

・救助者が有害物質に触れないよう手袋や保護眼鏡、呼吸用保護具などの保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

・現在のところ有用な情報なし。

5．火災時の措置

消火剤

・粉末ドライケミカル、二酸化炭素、泡消火剤、乾燥砂が有効である。

・初期の火災には、粉末ドライケミカルを用いる。

・大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。

使ってはならない消火剤

・冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

火災時の特定危険有害性

・イソシアネート蒸気を発生する危険性がある。

特有の消火方法

・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

・容器周辺が火災のときには、周辺の設備などに散水して冷却する。

・大規模火災の際には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。消火作業は可能な限り風上から行う。

・粉末ドライケミカルで初期消火にあたる。

・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

消火を行う者の保護

・消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用する。

・消火作業の際は、空気呼吸器等の保護具を着用し、酸素欠乏及び有害ガスから身を守ること。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

・作業の際は、適切な保護具を着用する。飛沫が皮膚に付着しないようにする。

・ガスを吸入しないようにする。

・付近の着火源となるものを速やかに取り除く。

・風上から作業し、風下の人を退避させる。

・漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。

環境に対する注意事項

・河川、下水道等に流出し、二次災害、環境汚染を起こさないように注意する。万一、公共水域へ流出した場合は、必要に応じて所轄の消防署、警察署等の監督官庁へ届け出ること。

回収、中和

・少量の場合 ： 土、砂、ウエス等に吸収させ、回収する。

・大量の場合 ： 盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから回収する。

二次災害の防止策

・漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

・周囲の着火源を取り除き、消火用器材を準備する。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

・「**8. ばく露防止及び保護措置**」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

・使用に当たっては、換気装置を設置することが望ましい。

・「**8. ばく露防止及び保護措置**」に記載の局所排気、全体換気を行う

注意事項

・漏れ、あふれ、飛散しないよう注意する。

・室内での取扱いには換気を良くする。直火で加熱してはならない。

・みだりにミストが発生しないように取扱う。

・熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。

接触回避

・強酸化剤との接触を避ける。

・「**１０．安定性及び反応性**」を参照。

安全取扱い注意事項

・火気厳禁

・当社製品である SRK シール C 主剤を使用し、施工すること。

保管 技術的対策

・静電気対策のために、装置、機器等の接地を確実に行う。

・高温物、スパーク、火気を避け、強酸化剤等との接触を避ける。

・SDSや全ての安全注意事項を読み、理解してから取扱う。

・有害物を吸い込んだり、眼や皮屑及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用し作業を行う。

・取扱い後は手・顔等を良く洗い、休憩所などに汚染された保護具を持ち込まない。

混触禁止物質

・「**１０．安定性及び反応性**」を参照。

衛生対策

・取扱い後、うがいを行い石鹸で手を洗うこと。

保管条件

技術的対策：　容器は密栓する。

安全な保管条件：　火気、熱源の近くに置かない。

消防法などの法令に定めるところに保管する。

密閉容器で直射日光を避け、冷暗所に貯蔵する。

安全な容器包装材料：吸湿透湿性の無い密閉できる容器

８．ばく露防止及び保護措置

設備対策

・使用に当っては換気を良くする。

・換気の悪い場所で使用する場合、換気装置を設置する。

・取り扱い場所の近くに洗眼、水洗設備を設置することが望ましい。

・管理濃度又は許容濃度、濃度基準値が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置その他の装置により、空気中の濃度を適切な濃度以下に抑える。

・可燃性蒸気が滞留するおそれのある場所の電気・換気・照明設備は、防爆性のあるものを使用する。危険物の流動等により静電気が発生するおそれがある場合は、接地するなど有効に静電気を除去する措置（例：アース）を講ずる。火花を発生させない工具を使用すること。

管理濃度

・設定されていない。

許容濃度

・製品に対する有用な情報なし。

・日本産業衛生学	0.05 mg/m³	（4,4'-MDI の成分情報）
・米国産業衛生専門家会議（ACGIH）TLV － TWA	0.005 ppm	（4,4'-MDI の成分情報）

保護具

呼吸器の保護具

・作業者がガスや蒸気にばく露される場合は、有機ガス用防毒マスクを着用する。

・作業者が粉じんにばく露される環境の場合は、防じん機能付きの吸収缶を使用する。

・防毒マスクは日本産業規格に適合した、作業に適した性能及び構造のものを選ぶ。その際、取扱説明書等のデータを参考にする。

・ガスや蒸気が高濃度の場合や、密閉空間で作業する場合は、送気マスクの装着を検討する。

手の保護具

・ゴム製又は樹脂製の不浸透性の保護手袋を着用する。取扱説明書に記載されている耐透過性クラス等を参考として、適した保護手袋を使用する。

眼の保護具

・ガラス又は樹脂製の側板付き保護眼鏡、ゴーグル、面体を作業状況に合わせて着用する。

皮膚及び身体の保護具

・帯電防止機能を有する不浸透性の長袖、長ズボン、保護靴を着用する。頭部は保護帽、必要に応じてヘルメットを着用する。

特別な注意事項

・特になし。

9．物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	淡褐色透明の液体	
臭い	ほとんどなし	
pH	データなし	
融点・凝固点	製品：	データなし
	フタル酸ジイソノニル：	−45℃
	4,4'-MDI：	37℃
沸点	製品：	データなし
	フタル酸ジイソノニル：	403℃
	4,4'-MDI：	196℃
初留点	データなし	
沸点範囲	データなし	
引火点	製品：	データなし
	フタル酸ジイソノニル：	235℃
	PMDI：	208℃
爆発範囲下限界	製品：	データなし
	フタル酸ジイソノニル：	0.4 Vol%
爆発範囲上限界/可燃限界	製品：	データなし
	フタル酸ジイソノニル：	2.9 Vol%
蒸気圧	製品：	データなし
	フタル酸ジイソノニル：	7E−005 Pa

	4,4'-MDI：	0.001 Pa
密度及び/又は相対密度	製品：	1.1 g/cm3（密度）
	フタル酸ジイソノニル：	0.972 g/cm3（密度）
	4,4'-MDI：	1.2（相対密度）
溶解度	製品：水に不溶、各種溶剤に可溶	
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	製品：	データなし
	フタル酸ジイソノニル：	9.73
	4,4'-MDI：	5.22
自然発火点	製品：	データなし
	フタル酸ジイソノニル：	374℃
	4,4'-MDI：	232℃
分解温度	データなし	
動粘度	製品：72 mm2/s（25℃）	

１０．安定性及び反応性

反応性

・情報なし。

化学的安定性

・室温では安定。

危険有害反応性

・水と反応し、発熱する。

避けるべき条件

・加熱、加温、直射日光、氷点下。

混触危険物質

・水、アルコール、アミン類等の活性水素化合物との接触をしないように注意する。

危険有害な分解生成物

・データなし。

１１．有害性情報

急性毒性（経口）	
製品	データなし
フタル酸ジイソノニル	経口ラット　LD50　＞9800 mg/kg
PDMI	経口ラット　LD50　＞10000 mg/kg
4,4'-MDI	経口ラット　LD50　31600 mg/kg
急性毒性（経皮）	
製品	データなし
フタル酸ジイソノニル	経皮ラット　LD50　＞3160 mg/kg
PDMI	経皮ラビット　LD50　＞9400 mg/kg
急性毒性（吸入）（粉じん、ミスト）	
製品	データなし

PDMI	PMDI の LC50(4 時間）は 490mg/m3 である [1]。この試験で使われたミストは急性毒性試験のための国際的ガイドラインに合っているが、そのような人工的に発生させた微細ミストは職場で発生することはなく、ばく露の可能性は全く無い [2]ことから EU の専門家はこのデータを基に分類するのは不適当であると結論付けている。 PMDI の区分は"Harmful"から「区分 4」とした [3]。
4,4'-MDI	4,4'-MDI は固体である。4,4'-MDI を約 50%含有するポリメリック MDI は飽和蒸気濃度が非常に低い液体であり(0.003ppm at 20℃[4])、この濃度は毒物学上の作用は全く無い。ポリメリック MDI の LC50(4 時間）は 490mg/m3 である [1]。この試験で使われたミストは急性毒性試験のための国際的ガイドラインに合って いるが、そのような人工的に発生させた微細ミストは職場で発生することはなく、ばく露の可能性は全く無い [2]ことから EU の専門家はこのデータを基に分類するのは不適当であると結論付けている。 ポリメリック MDI の区分は "Harmful"から「区分 4」とした [3]。
皮膚腐食性/刺激性	
製品	データなし
フタル酸ジイソノニル	ウサギの皮膚刺激性試験(4 時間貼付）[5]では、24 時間後にごく軽度の紅斑（スコア 1)がみられたが 48 時間後には消失した。24 時間閉塞適用した過酷条件の試験でも一過性の軽度の紅斑、浮腫が発現したが、速やかに消失しており、いずれも平均スコアは 1.0 を下回っていた [6),7)]。また、ボランティアによるヒトのパッチテストでも皮膚刺激性は認められなかった [6),7)]。これらの結果から皮膚刺激性はごく軽度と結論されており [6),7)]、区分に該当しないとした。
4,4'-MDI	ウサギの皮膚を刺激するとの記述から区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	
製品	データなし
フタル酸ジイソノニル	サギの眼刺激性試験 [8)]では、1 時間後にごく軽度から中等度の結膜潮紅（スコア 4.3)がみられたが、24 時間後には軽減し（スコア 0.33)、以降は消失した。その他、ウサギの眼刺激性試験(2 試験）においても、一過性の結膜発赤あるいは分泌物がみられたが、48 時間以降は消失した [6),7)]。これらの結果から眼刺激性はごく軽度と結論され [6),7)]、区分に該当しないとした。
PDMI	(1)本物質がヒトの眼に直接接触した場合、一過性の眼瞼結膜炎が生じる [9)]。(2)本物質の短期間ばく露で眼と気道を刺激するとの報告がある [10)]。(1)(2)より、区分 2 とした。
4,4'-MDI	ウサギを用いた眼刺激性試験において、軽度の刺激性が見られたとの報告や、刺激性はみられなかったとの報告から、区分 2B とした。

呼吸器感作性	
製品	データなし
PDMI	(1)本物質をばく露したヒトにおいて、外因性アレルギー性肺炎(過敏性肺炎）の症例が数例報告されている。稀には喘息様症状を伴う肺胞炎がみられる[11]。(2)本物質及びモノマーである MDI は気道アレルギーを引き起こす[12]。(3)DFG MAK では Sah（気道皮膚感作性物質）に分類されている。 (1)~(3)より、区分 1 とした。
4,4'-MDI	ヒトに対して喘息を引き起こすという報告があり、ヒトと動物に対して気道感作性を引き起こすとの記載があるため、区分 1 とした。
皮膚感作性	
製品	データなし
PDMI	DFG MAK では Sah（気道皮膚感作性物質）に分類されている。よって区分 1 とした。
4,4'-MDI	モルモットを用いたマキシマイゼーション試験と、ヒトのパッチテストで感作性を示したとの報告から区分 1 とした。
生殖細胞変位原性	
	データなし
発がん性	
製品	データなし
PDMI	(1)国内外の分類機関による既存分類でとして、IARC ではグループ 3 に、EPA では"not classifiable or a Group D (1986 年基準）"、又は "cannot be determined, but for which there is suggestive evidence that raises concern for carcinogenic effects (1996 年基準）"に[13]、DFG MAK では Category 38 に分類されている[14]。(2)ラットを用いた 2 年間吸入ばく露による発がん性試験において、最高濃度の 6.0 mg/m3 群では肺腺腫が雄 6/60 例、雌 2/60 例に、肺腺がんが雄 1/60 例に認められた[13),15),16)]。 (1)(2)より、区分 2 とした。
生殖毒性	
製品	データなし
フタル酸ジイソノニル	本物質は、o-フタル酸の C9 を中心とした C8~C10 分岐鎖ジアルキルエステルの混合物であり、DINP-1(CAS 登録番号：68515-48-0)、DINP-2 (CAS 登録番号：28553-12-0)及び DINP-3(CAS 登録番号：28553-12-0)について、比較可能な試験結果などから、動物体内において毒性学的影響に大きな差異がなく、3 種を区別せずに評価することが適当と判断した[17]。その他の根拠で、受胎能への有害影響はみられなかったが、発生影響として主に骨格・内臓変異、雄児の精子及び生殖器の発達障害や、親動物の一般毒性用量で体重低値、出生率及び生存率の低下がみられたことから、区分 2 とした。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）	
製品	データなし
PDMI	本物質の短期間ばく露で眼と気道を刺激するとの報告があることより、区分（1 呼吸器）とした[14)]。
4,4'-MDI	本物質は呼吸器への影響があり、区分 1（呼吸器）とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	
製品	データなし
PDMI	ヒトでの反復ばく露影響に関する報告から、肺機能障害は PMDI の 87　ppb (0.9　mg/m3)の低濃度からみられた。 20　ppb(0.2　mg/m3)の濃度では、肺活量に影響はないが、気道症状がみられた。PMDI(Polymeric　methylene　diphenyl diisocyanate)の 10 ppb(0. 1 mg/m3)以下の濃度ばく露では、呼吸器症状の主訴の発生率は有意な増加を示さなかったとの報告がある[14)]。よって、区分 1（呼吸器）とした。
4,4'-MDI	長期にわたる、又は反復暴露による臓器（呼吸器）の障害（区分 1）とした
誤えん有害性	
	データなし

１２．環境影響情報

生態毒性（魚類）	
フタル酸ジイソノニル	≧0.14 mg/L-96hr　ファットヘッドミノー
生態毒性（甲殻類）	
フタル酸ジイソノニル	≧0.086 mg/L-48hr　オオミジンコ
生態毒性（甲殻類）	
	データなし
水性環境有害性　短期（急性）	
製品	十分なデータがないため、分類できないとした。
水性環境有害性　長期（慢性）	
製品	十分なデータがないため、分類できないとした。
フタル酸ジイソノニル	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急性毒性が区分に該当しないであり、難水溶性物質（水溶解度 0.2　mg/L ）である[18)]が、急速分解性がある(BOD による分解度：74%ことから[19)]、区分に該当しないとした。
残留性・分解性	
	データなし
生態蓄積性	
	データなし
土壌中の移動性	
	データなし
オゾン層への有害性	

	データなし
他の有害影響	
	知見のない項目が多いので、一般環境内への廃棄は行わない。

１３．廃棄上の注意

・都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

１４．輸送上の注意

国際規制

国連分類	・9：その他の危険性物質および物品（環境有害性物質を含む）
国連番号	・UN3082
品名（国連輸送名）	・環境有害性物質（液体）
容器等級	・包装等級 3
海洋汚染物質	・該当

国内規制

・下記、輸送に関する国内法規則に該当するので、各報の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上	・消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
海上	・船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空	・航空法に定められている運送方法に従う
特別な安全対策	・特になし

輸送又は輸送手段に関するの特定の安全対策

・該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

・容器の破損、漏れのないことを確かめ、衝撃、転倒、落下、容器破損のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

・海上輸送を行う場合は、当社に連絡し、判断を仰ぐこと。

応急措置指針番号　・171 低、中程度の有害性物質

１５．適用法令

化学物質管理促進法（PRTR）	・第一種指定化学物質 4,4’-MDI（第 448 号） PMDI　（第 585 号）
化審法	・優先評価化学物質　PMDI
労働安全衛生法	・通知対象物 4,4’-MDI、フタル酸ジイソノニル ・危険性又は有害性等を調査しなければならない物質 4,4’-MDI、フタル酸ジイソノニル ・皮膚等障害化学物質　PMDI、4,4’-MDI
消防法	・危険物　引火性液体　第四類第四石油類（非水溶性）危険等級 III 指定数量 6000 L　フタル酸ジイソノニル、PMDI、4,4’-MDI
海洋汚染防止法	・有害液体物質（Y 類同等の物質）フタル酸ジイソノニル ・有害液体物質（Y 類）　PMDI、4,4’-MDI

１６．その他の情報

参考資料

GHS に基づく化学品の危険有害情報の伝達方法 － ラベル、作業場内の表示および
安全データシート（SDS）JIS Z 7253 : 2019

1）Appleman and de Jong,198211
2）EC 200515
3）Directive 67/548/EEC;25th ATP 14)Dir 98/8/EC,O.J.30.12.199814
4）Allportet al.200310
5）OECD TG 404
6）EU-RAR (2003)
7）NICNAS (2012)
8）OECD TG 405
9）DFG MAK (1992)
10）DFG MAK (2008)
11）DFG MAK (1992)
12）DFG MAK (2000)
13）IRIS (1998)
14）DFG MAK (2015)
15）DFG MAK (2008)
16）AICIS（旧 NICNAS) IMAP (2013)
17）食安委器具・容器包装評価書（2015）
18）PHYSPROP Database (2009)
19）既存点検（2002）

記載内容の取扱い

・安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者に提供されるものです。取扱う業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

・すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをおすすめします。なお、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

記載内容の問い合わせ先

・担当部門　シンレキ工業株式会社　中央研究所
・住所　〒 210 - 0867　神奈川県川崎市川崎区扇町 6 番 2 号
・電話番号　044 - 366 - 1617
・FAX 番号　044 - 366 - 1618
・メールアドレス　kenkyu@shinreki.co.jp
・受付日時　月曜日 ～ 金曜日（祝日は休業）　8 : 30 ～ 17 : 30